

『狐笛のかなた』上橋菜穂子著 新潮文庫 2006

人の心を聞くことのできる、「聞き耳」の力をもつ小夜は、ある日、一匹の狐を助ける。その狐は隣の国との争いのために、呪者に狐笛で霊狐にされ操られた、野火だった！小夜と野火は争いのなか、お互いに惹かれあっていく。小夜をひたすら守りぬく野火にきゅんきゅんしちゃう！



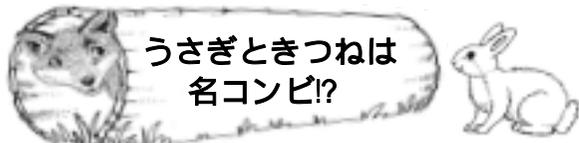
『カラスだんなのおよめとり アラスカのエスキモーのたのしいお話 岩波おはなしの本1』より「キツネの毛がわはなぜ赤い」チャールズ・ギラム著 石井桃子訳 丸木俊絵 岩波書店 1967

赤茶色いきつねが昔は真っ白だったって知ってた？ どうやって今の赤茶色になったの？ まだきつねが真っ白だった頃のおはなし。



『キツネ山の夏休み ジョイ・ストリート』富安陽子著 あかね書房 1994

両親が共働きの弥は、夏休みの間、稲荷山のお松おばあちゃんの家にお世話になることに。しかし、稲荷山で過ごす弥のまわりで次から次へとふしぎなことや物騒なことがおこり…。これは稲荷山に、昔から伝わるきつねのしわざなの？ 弥のふしぎで忘れられない夏休みがいまはじまる！



うさぎときつねは名コンビ！

『ズートピア ディズニーの英語コレクション14』石原真弓英文解説 KADOKAWA 2016

さまざまな動物が暮らす国、ズートピア。そこで暮らす新米女警察官のうさぎのジュディーと、詐欺師のキツネのニック、正反対の凸凹なふたりが、ひよんなことからある行方不明事件を追うことになり…。ディズニーの映画「ズートピア」を英語で楽しんでみませんか CDつき。英語の本や雑誌はEnglish Roomにもたくさんあるよ

『キツネのフォスとうさぎのハース』シルヴィア・ヴァンデン・ヘーデ作 テー・チョンギン 絵 野坂悦子訳 岩波書店 2007

くいしんぼうきつねのフォスとしっかりものうさぎのハースは仲がいいんだか悪いんだか。そんなふたりのなんてことない日常がかわいくてくすくすしちゃう1冊。

『ウサギどんキツネどん リーマスじいやのした話』J・C・ハリス著 八波直則訳 岩波少年文庫 1953

【自分の知っていることはまちがいないと信じ込んで大きな顔をしている人間は、いざというときにたよりにならない人間だ】うさぎをつかまえるために、きつねは、策略をめぐらせますが、うさぎもうさぎで、きつねから逃げ出す方法を考えていたのだった。2匹の知恵くらべの行方は！

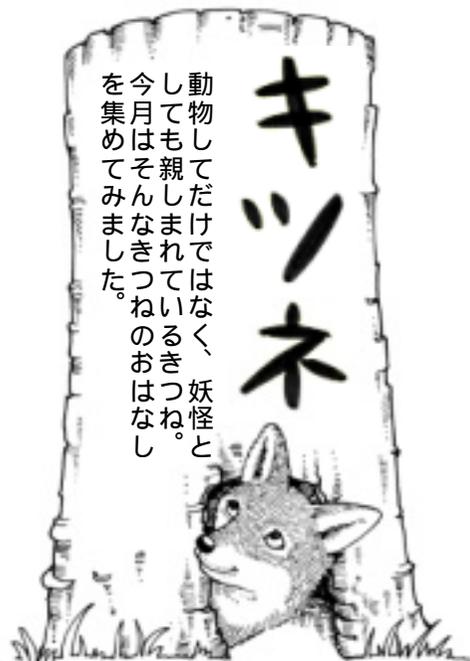
『おもしろい！ 進化のふしぎ 続 ざんねんないきもの事典』今泉忠明監修 下間文恵ほか絵 丸山貴史文 高橋書店 2017

キツネの子どもは聞き分けが悪い！？キツネは、自分の子どもが大きくなると、子どもを追い出すのだそう。やさしいおかあさんがまさかそんなひどいことをするはずがないと、いやがりすぎるのだが、追い出すにはちゃんとしたワケが！ いろんな動物たちの残念な生態をどうぞ。



はと時計5月号

松蔭中高図書館 2018年5月24日発行 library@shoin-jhs.ac.jp担当 正路



を今し動
集月て物
めはもし
てそ親で
みんしだ
まなまけ
しきれで
たつては
ねいなく
のるく、
おき
はつ怪
なねと
し 妖怪と

キツネ

『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』内山節著 講談社現代新書 2007

「きつねにまたいっぱいくわされた」かつて人々は、キツネに日常的にだまされていたが、今はほとんどそんな話は聞かない。自然の変化や人間の行動をよく知っているキツネは、その知識を存分にいかし、様々なパターンで人間を化かしたり、人間に悪さをしてきた。そんな知恵者であるキツネはどうして、衰退していったのか。人間が変わったの？ はたまたきつねの方が変わってしまったの？ その理由を、いろんな観点から教えてくれる1冊。



名作ぞろいな絵本もどうぞ

小さい頃読んだことあるものもたくさんあるかな？ ここに載せているもの以外にも『きつねのよめいり』や、『きつねによぼう』など図書館にはたくさんありますよ。



『絵本 チロヌップのきつね』（絵本）たかはしひろゆき文・絵 金の星社 1972

ある日、おかあさんきつねとおとうさんきつねとはぐれてしまったちびこぎつねは、おじいさんとおばあさんにひろわれ、ふたりのもて可愛がられてすくすく育つ。しかし、戦争が激しくなると、ちびこぎつねは兵隊にねらわれ…。

『おこんじょうり』（絵本）さねとうあきら文 井上洋介挿絵 理論社 1979

歳をとって体調を悪くしねこんでしまったイタコのおばあさんのもとに、ある夜、きつねが現れる。おばあさんはきつねに、家にある食材を全部やる。きつねはごはんをもらったお礼にと、ふしぎな浄瑠璃を聞かせると、おばあさんのからだはすっかりよくなり…。

『きつねのライネケ』ゲーテ作 上田真而子編訳 小野おる画 岩波少年文庫 2007

悪賢く、みんなをだまし、いじめているきつねのライネケは、動物たちからひどく疎まれていた。そんな悪事の数々がライオンの王様の耳にも入り、ライネケはとうとう死刑を宣告されてしまう。しかし、処刑場でもライネケは持ち前のずるがしこさを発揮し…。本当に次から次へとよくもまあこんな悪知恵を！



『となりのもののけさん』より「稲荷道中（東朔水著）」青谷真未ほか著 ポプラ文庫ピュアフル 2014

商売繁盛を司るミツ葉山稲荷神社のきつねミツバが、ぎくしゃくした豆腐屋の親子の絆をとりもどすべく、立ち上がる！？



『新版 イソップのお話』イソップ原作 河野与一編訳 岩波少年文庫 2000

知恵を働かし、相手をつまくだます悪賢いきつねや、逆にだまされてしまうおまぬけなきつね、欲深いきつね、などいろんなきつねが登場するおはなしがたくさん！ 短い話ばかりですぐ読めるよ



『星の王子さま』アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ著 河野万里子訳 新潮文庫 2006

飛行機で不時着した飛行士のほくの前にあらわれたのは小さな王子様。いくつもの星をまわって、旅をし、ぼくがいまいる地球へとやってきたという。王子様は、仕事忙しい実業家、酒びたりの男や大物気取りの男や蛇やきつね… ゆく先々でちょっと変わった人や動物たちと出会う。旅の途中で出会ったきつねが、王子様に「おくれたことばは、とっても有名なあの言葉



『写真家だけが知っている動物たちの物語』ロザムンド・キッドマン・コックス著 片山美佳子訳 ナショナルジオグラフィック社 2017

ホッキョクギツネがアカギツネに食べられてしまっている1枚の写真。通常この2匹は、お互いが鉢合わせないようにお互いを避けて行動しているはずなのにどうして！？ 動物たちのさまざまな瞬間を激写するために、動物につきっきりの写真家だからこそ見ることのできた動物たちの貴重な瞬間、そしてそこに秘められた物語の数々。「ワイルドライフ・フォトグラファー・オブ・ザ・イヤー」（大自然や野生動物の写真を芸術にまで高めた写真家に与えられる、世界で最も古い世界一の動物写真賞！）を受賞した作品をあつめた写真集！



教科書にも掲載され、時代を問わず愛される新美南吉（彼の故郷であり、多くの童話の舞台になった愛知県知多半島では、キツネは人間にとって身近な動物だったのだそう！）の『ごんぎつね』や『てぶくろを買いに』、宮沢賢治の『雪渡り』も図書館にありますよ！

